

自立若手教員による異分野融合領域の創出 (実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：岡山大学（総括責任者：森田 潔）

プロジェクトの概要

岡山大学は、将来の革新基幹技術となりうる異分野融合新領域創出を研究の重点と位置付け、その担い手である若手研究者の育成のための制度改革を行う。若手研究者が自立して異分野融合研究領域の創出を行う研究組織として「異分野融合先端研究コア」を設置する。同研究コアには、国際公募により採用する 11 名のテニュアトラック若手研究者が在籍し、メンター教員の助言と支援を受けながら、学内公募により選抜された若手共同研究教員とともに異分野融合研究を遂行する。テニュアトラック若手研究者は研究に専念するが、博士後期課程学生の副指導教員や、博士後期課程対象の「異分野融合科学 (Interdisciplinary Sciences)」の講義（一人当たり年 2～3 回程度担当）などで教育経験も積む。なお、テニュアトラック若手研究者の採用審査や研究進捗の評価は、国内外の外部委員を含む評価委員会で行う。当該評価の基準は被評価者にあらかじめ公開され、テニュアトラック若手研究者がどの方向に研究を推進すればよいか明確になっている。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
S	s	a	s	s	a	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクトでは異分野融合の先導的研究を行う若手研究者の育成システムとして、テニュアトラック制（以下、「TT 制」という）の制度設計に取り組んでおり、目標は明確であり、優秀なテニュアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）の養成に成功するとともに、制度の継続につなげていることは高く評価できる。また、ウーマンテニュアトラック (WTT) 制という特長ある独自の制度を立ち上げるなど、TT 制に対する理解も深く、全体として、企画、運営、実施が円滑に行われており、本プログラムの意義を的確に踏まえ、計画以上の成果が達成できている。

- ・ **目標達成度**：全体として企画、運営、実施が円滑に行われ、支援や評価の任に当たる構成員や TT 若手もその意義を良く理解し、高い目標を達成しており、計画以上のよい成果が出ていることは高く評価できる。
- ・ **国際公募・選考・業績評価**：公募・選考・業績評価の方法などの実施内容は、公正性及び透明性が確保されている。また、採用された TT 若手は外国籍、女性、さらに理系の広範な分野を網羅した人選となっており、整備された自立的環境下での育成に成功していることは評価できる。

- **制度設計に基づく実施内容・実績**：異分野融合の創出を目指した学内研究者の相互連携やメンターの効果的支援など、プロジェクト推進のための制度が機能し、異分野融合領域の創出にふさわしい活動が実施されるとともに、多彩な領域で業績を上げていることは高く評価できる。
- **制度設計に対するマネジメント**：制度設計、実施内容ともに、学長以下の関係者のマネジメントが行き届いており、運営協議会、評価委員会などがよく機能し、効果的な運営が行われたことは高く評価できる。異分野融合先端研究コアを部局から独立して運営し、若手人材の育成の場として適正規模を維持していくためには、機関として戦略的な取組が重要であり、今後の展開を期待する。
- **実施期間終了後における取組**：本プロジェクトは学内でも高く評価され、自主経費による異分野融合領域の TT 制を継続させるとともに、WTT 制や新たにいくつかの部局で実施する部局型 TT 制の制度設計がなされるなど、TT 制の定着が進んでいることは評価できる。また、部局の特徴を踏まえた多様な TT 制の導入が計画されており、本プロジェクトの成果を活用して部局の特徴に応じた TT 制の着実な全学展開を期待する。
- **中間評価の反映**：中間評価では高い評価を受けており、その評価のもと、適切にプロジェクトが実施されていることは評価できる。今後は、全学レベルでのさらなる TT 制の展開を期待する。